

# ロシア語形容詞の比較級ヴァリエントの使い分けの検証

## —крупный, молодой を例として—

恩田 義徳

(東京外国語大学大学院博士前期課程)

### はじめに

現代ロシア語では形容詞と副詞の比較級を単一形と合成形の2通りの方法で表すことができる。単一形は語幹に-ee あるいは-e をつけることで形成される<sup>1</sup>。-ee による比較級は生産的な形で多くの形容詞はこの型に属する。一方、-e を取るのは主に軟口蓋子音の語幹を持つ語で、語尾をとる際に子音字の変化を伴う。この型に属する語はおよそ70~80語といわれ初級の教科書などでは比較級の例外として扱われることが多い。(例えば城田 1993p.288 など)

また-ee には-ей というヴァリエントがある。一般に後者の方が「話し言葉的」であるとされる。

単一形は不変化で、性・数・格の一致は起こらない。

Этот фильм интереснее. (<интересный) この映画のほうが面白い。

Эта книга дороже. (<дорогой) この本のほうが高い。

合成形は副詞 более (より多く) あるいは менее (より少なく) を伴った形容詞の原級であらわされる。形容詞は文中の役割によって長語尾では性・数・格、単語尾では性・数の変化をする。

Этот фильм более интересный. この映画のほうが面白い。

Это книга более интересная. この本のほうが面白い。

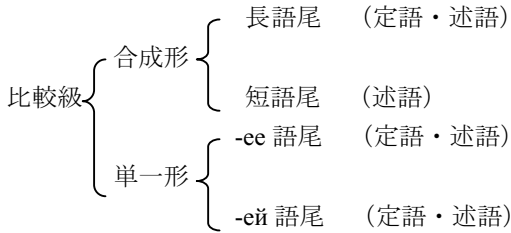
Этот вопрос более интересен. この問題のほうが面白い。

形容詞の合成形で長語尾：短語尾の対立が存在しているのに対し、単一形を「短語尾」とする見方もある。しかし、以下表からも分かるように単一形には語尾の長短の対立は起こらない。単一形を短語尾とみなす要因は、それがもつばら述語として現れる点に

<sup>1</sup> 単一形には他にも-ший という語尾を取るものがある。(例えば большой, лучший, высший, старший など) しかしこれらは古い形を残した非生産的な形であり極めて少数である。

さらに語彙的にほとんど比較の意味を失っているものもあり、比較級のパラダイムとは認めない意見もある。(старший брат 兄 cf. Он старше меня.彼は私より年上だ。) いずれにせよ、これらの形を持つ形容詞は普通 более (<менее) を伴ってあらわれないため、本稿では特に取り扱わないことにする。

あると思われるが、単一形が定語として現れる場合もあり<sup>2</sup>、単一形を短語尾とみなすことはできない。



単一形と合成形の使い分けには、使用される文体の差が指摘される場合が多く、一般に合成形の方が「書き言葉的」であるといわれる。

しかしいずれも絶対的特徴ではなく「傾向」、「もっぱら」などの表現で扱われることが多い。また 1-1-2 で見るように単一形にも「口語的」な特徴を認める説もあり、その用法を一概に決めることは難しい。

また単一形のヴァリエントに関して、-ей 語尾は話し言葉で用いられるとされている。以下先行研究に見るようにこの認識についてはほとんどゆれがない。

本稿では先行研究での問題点を踏まえ、コーパスによる検索からそれぞれのヴァリエントの用法にどのような傾があるかを数字で具体的に表し、検討・確認するものである。

さらに-ей 語尾は「話し言葉的」とあると言う点で有標であるのか、-ee 語尾は文体的に無標であるといえるのかについてもあわせて検討していく。

文体に関して厳密に規定することは非常に困難である。仮に文字として書かれたものは全て文語とするならば、本研究の対象は全て文語と言うことになる。しかし、人によって話された内容を文字化したものであれば、それは文語というより口語に近いものであることは間違いない。本稿では両者の社会的機能の差に注目し、不特定多数の相手に向かって情報を伝達する事を目的とした新聞や雑誌などに用いられるものを「書き言葉的」文体、特定の相手に向かって発話されたものを「話し言葉的」文体と考えた。

また以下先行研究に見られるように「文語」「口語」といった術語を用いる研究者も少なくないが、上記のような混乱を招きうるという理由から本稿では「文語」「文章語」を「書き言葉的」文体、「口語」やそれに順ずるものを「話し言葉的」文体として考えることにする。

<sup>2</sup> 例えば本研究では 3-2-1 で見られるように 271 例中 8 例が定語として現れている。

## 1. 先行研究

### 1-1 単一形・合成形について

#### 1-1-1 ГППРによる研究

ロシア語の様々なヴァリエントについて比較検討している ГППР (2001 p.322) によると、単一形と合成形の選択基準は以下の3点であるという。

- 1) 統語機能
- 2) 文体 (口語的, 学術的, 社会論評的)
- 3) 語彙的頻度

統語機能についてはあらゆる文体を通じて、それぞれ以下の統語機能が優勢であるとしている。<sup>3</sup>

単一形：述語・状況語

合成形：定語

また ГППР (1976) には Он культурнее.-Он более культурный.および культурнее жить-более культурно жить を例として、単一形：合成形の比を具体的数字で示している。<sup>4</sup>

Он культурнее. культурнее жить	:	Он более культурный. более культурно жить	合計
1985 例 (72.74%)	:	744 例 (27.26%)	2729 例 (100%)

【表 1：単一形：合成形 ГППР (1976 p.235)】

#### 1-1-2 Розенталь (2003) による研究

文体論に関する Розенталь (2003 p.142) によれば比較級の単一形、合成形にはそれぞれ以下のような特徴があるという。

単一形：口語的

合成形：文語的

#### 1-1-3 城田 (1993)

城田 1993 では合成形については短語尾・長語尾ともに「書き言葉的」としているが (pp283,285)、単一形の-ee については「書き言葉・話し言葉」の区別なく用いられる (p.288) としている。なお-ей に関しては「話し言葉で用いられる」とある (p.287)。

<sup>3</sup> ГППР (2001 及び 1976) では比較級のヴァリエントとしての項目を挙げているが、ここでは形容詞と副詞の比較級について区別せずに言及している。ここで挙げられている状況語は副詞に限った機能である。

<sup>4</sup> ГППР (1976) の用例は 1960 年代～1970 年代前半の複数の新聞から取材しているとある。(p.5) なおここに挙げられている数字も形容詞、副詞の比較級を区別していないと思われる。

## 1-2 単一形のヴァリエントについて

### 1-2-1 Г П Р Р (2001)

上記 1-1-1 でもふれた Г П Р Р (2001p.241) では単一形のヴァリエントに関しては文体的に以下のようなニュアンスが含まれるとしている。

-ee 語尾：ニュートラル

-ей 語尾：口語的

さらに文体に関連して、以下のような点も指摘している。

- 1) 社会論評的文章では-ей は非常にまれで 100 例中 2-4 例程度である。
- 2) インテリゲンツィア (知識階級) の口語では比率が 12 : 1 (-ee : -ей) になる。
- 3) -ей が最も多く現れるのは芸術的散文においてで約 30%ほどである。文章に口語性を出すためのテクニックとして用いられるが、作家の好みにもよる。

また同 Г П Р Р (1976) には скорее-скорей のタイプの比として以下の数字が挙げられている。

скорее	:	скорей	合計
2029 例	:	167 例	2196 例
(92.48%)		(7.52%)	(100%)

【表 2：単一形のヴァリエントの比 (Г П Р Р 1976 p.241)】

### 1-2-2 Р Г (1980) による記述

Р Г 1980 には単一形に関連して、「比較級で-ee をとるものには-ей という別形がある。-ей はもっぱら口語と詩 (韻文) において現れる。」とある。

細かい文体の差に関する記述は特に見あたらない。

## 1-3 先行研究の問題点

Г П Р Р (1976) は具体的な数字を挙げ、絶対数では単一形が優勢である事を示している。しかし Г П Р Р が新聞から例を集めたことを考えると文語的な例が多いと考えられ、合成形が約 30%という結果は Розенталь (2003) や城田 (1993) の「合成形が話し言葉的である」という記述にそぐわない。Г П Р Р の指摘するように、単一形と合成形にはそれぞれ優勢な統語機能があるのであれば、その比率も同時に考慮する必要がある。さらに形容詞と副詞を区別せずに記述しているため、述語副詞の扱いなど、統語機能の点で明確さに欠ける。

また Розенталь (2003) は単一形に「口語的」、つまり「話し言葉的」な特徴を認めているが、これは単一形を「書き言葉・話し言葉」の区別なく用いられる」とする城田 (1993) の記述と相容れない。

単一形のヴァリエントについては-ей 語尾が「話し言葉的」要素を持つという点で多く

の先行研究の記述は一致する。ГППР (1976) の数字は新聞からの例であり、「書き言葉的」であるといえる事を考えると、-ей 語尾が 1 割に満たないという数字は概ねこれを支持していると考えてよい。しかし話し言葉的なテキストにおける検証がなく、偏った結果であるといわざるを得ない。

本稿では先行研究の以上のような問題点を考慮に入れ検討していく。

## 2. コーパスによる用例検索

### 2-1 検索語・検索方法

検索語の決定には以下の点を考慮した。

- ・ 比較的使用頻度の高いもの<sup>5</sup>
- ・ 短語尾中性形と同型の述語副詞があらわれないもの<sup>6</sup>
- ・ 慣用表現として現れにくいものの

-ee をとるものとして крупный を、-e をとるものとして молодой を例にとった。単一形については語頭と語中に表れる場合について、合成形については長語尾の性・数・格、短語尾の性・数別にそれぞれの語頭・語中で現れる形式について全て検索した。その際、形容詞と副詞が一部混ざって検出された。本稿では形容詞と副詞を区別し、形容詞のみを対象としたため結果を手作業で分類した。

文体に関しては、基本的に新聞・雑誌のものは「書き言葉的」、インタビューに関しては「話し言葉的」、文学作品に関しては会話文か地の文かを凡その目安にした。しかし、例えば新聞等における口頭での話しの引用など、明らかに話し言葉と思われる箇所についてはその限りではない。

### 2-2 ロシア語のコーパス

本稿では以下に述べるドイツのテュービンゲン大学のロシア語コーパスシステムを利用し、用例の収集を行なった。

#### 2-2-1 テュービンゲン大学のコーパスシステム<sup>7</sup>

このシステムには以下 2-2-2 に挙げる Uppsala Corpus の他にも、複数のインターネットサイトから取材したインタビュー-記事のコーパス、社会時事雑誌 Ogoniek の記事からのコーパス、19・20 世紀の複数の作家の文学作品のテキストコーパス、および複数の作家による推理小説のテキストからなるコーパスがある<sup>8</sup>。また Uppsala Corpus に関して、本システ

<sup>5</sup> ЧС (1977) による。

<sup>6</sup> 述語副詞の比較級も形容詞と同じ形であらわれるため、今回の方法では区別されずに検索されてしまう。総検索数のバランスを考慮し今回はこのような措置をとった。また慣用表現で使われる語も数の上でのバランスが取れないことを考慮し除外した。

<sup>7</sup> テュービンゲン大学のコーパスシステム全体に関する詳細や実際の使用方法については小林 (2003) を参照のこと。

<sup>8</sup> Ogoniek 誌は 1996-2000 および 1996-2002 のもの、19 世紀の作家は L.Tolstoj, Trugenev, Doctoevskij, N,Leskov, 20 世紀の作家は A.Marina, M.Bulgakov, A.Rybakov, Ilqf i Petrov, A.&B.Strugackie からなる。

ム内においては新聞・雑誌と文学を分けて検索することも可能である。

今回の検索では現代ロシア語に焦点を絞り、19世紀の文学作品については除外した。

## 2-2-2 Uppsala Corpus

Uppsala Corpus は同大学 Lennart Lönngrén 教授の指導のもと作成された、研究を目的とするコーパスシステムである。フィクション、ノンフィクションのジャンルから 600 テキスト、およそ 100 万トークンからなり形態論的、統語論的な文法タグは付加されていない。

Uppsala Corpus は同大学のホームページ上では公開されていないため実際の検索には 2-1 に挙げたテュービンゲン大学のサイトを利用することになる。

## 3. 検索の結果と先行研究との比較

本稿では先行研究の問題点を踏まえ、検索結果について次のような順で考察を行なった。

- ・ 単一形：合成形  
単一形と合成形の統語機能の差の検証  
単一形と合成形の文体による使い分けの差
- ・ -ee 語尾：-ей 語尾  
両者が用いられる割合  
両者の文体的使い分け

### 3-1 単一形：合成形の検証

#### 3-1-1 総数

上記 2-1 で挙げた例では以下のような結果が出た。

	単一形	合成形	合計
総数	271 <sup>9</sup> 例	97 例	368 例
百分率	73.64%	26.36%	100%

【表 3-1 単一形：合成形 総数】

крупный と молодой のそれぞれの内訳は以下の通り。

	単一形	合成形	合計
総数	65 例	41 例	106 例
百分率	61.32%	38.68%	100%

【表 3-2 単一形：合成形 крупный】

<sup>9</sup> 検索総数 301 中、крупный で 8 例、молодой で 22 例の副詞が検索された。

	単一形	合成形	合計
総数	206 例	56 例	262 例
百分率	78.63%	21.37%	100%

【表 3-3 単一形：合成形 молодой】

以上から絶対数では単一形の方が優勢であることがうかがえる。さらに細かい数字を見ても表 1 に示した ГППР (1976) のそれと大きくは異なる結果となった。

### 3-1-2 統語機能の検証

次にそれぞれの語の統語機能に注目してまとめてみる。

	定語	述語	合計
単一形	8 例 (2.96%)	263 例 (97.04%)	271 例 (100%)
合成形	80 例 (82.47%)	17 例 (17.53%)	97 例 (100%)

【表 4-1 単一形:合成形 統語機能別 総数】

крупный と молодой のそれぞれの内訳は以下の通り。

	定語	述語	合計
単一形	6 例 (9.23%)	59 例 (90.77%)	65 例 (100%)
合成形	37 例 (90.24%)	4 例 (9.76%)	41 例 (100%)

【表 4-2 単一形:合成形 統語機能別 крупный】

	定語	述語	合計
単一形	2 例 (0.97%)	204 例 (99.03%)	206 例 (100%)
合成形	43 例 (76.79%)	13 例 (23.21%)	56 例 (100%)

【表 4-3 単一形:合成形 統語機能別 молодой】

この結果から ГППР (2001) にある「全ての文体を通じて」単一形が述語として用いられる事が多く、合成形は定語として用いられることが多いことが確認できた。

### 3-1-3 文体差の検証

次に単一形と合成形が文体によってどのように使い分けられているかをまとめてみる。

	単一形	合成形	合計
話し言葉的	33 例 (80.49%)	8 例 (19.51%)	41 例 (100%)
書き言葉的	238 例 (72.78%)	89 例 (27.22%)	327 例 (100%)

【表 5-1 単一形:合成形 文体別 総数】

	単一形	合成形	合計
話し言葉的	6 例(66.67%)	3 例(33.33%)	9 例(100%)
書き言葉的	59 例(60.82%)	38 例(39.18%)	97 例(100%)

【表 5-2 単一形:合成形 文体別 крупный】

	単一形	合成形	合計
話し言葉的	27 例(84.38%)	5 例(15.62%)	32 例(100%)
書き言葉的	179 例(77.83%)	51 例(22.17%)	230 例(100%)

【表 5-3 単一形:合成形 文体別 молодой】

この結果からは、話し言葉においても書き言葉においても単一形のほうが好まれていることが分かる。また、単一形の方が話し言葉で用いられる割合が若干高いことがわかる。しかしわずか数パーセントという範囲にとどまり、ここから Розенталь (2003) のように、一概に単一形を「話し言葉的である」とすることは難しそうである。

### 3-2 単一形のヴァリエント

単一形内にヴァリエントを持つのは -ee 語尾を取る形容詞だけであるから、молодой を対象とすることは出来ない。従ってここでは крупный について検証することになる。

#### 3-2-1 総数

	-ee 語尾	-ей 語尾	合計
例数	59 例	6 例	65 例
百分率	90.77%	9.23%	

【表 6-1 -ee:-ей 総数】

次にこの数字を文体別に分けると次のようになる。

	-ee 語尾	-ей 語尾	合計
話し言葉的	3 例( 50%)	3 例( 50%)	6 例(100%)
書き言葉的	56 例(94.92%)	3 例(5.08%)	59 例(100%)

【表 6-2 -ee:-ей 文体別 крупный】

この結果は -ee 語尾に比べ、-ей 語尾が話し言葉でよく用いられていることを示している。しかし「話し言葉的」だけを見れば -ей 語尾と -ee 語尾が同数となった。このことはもっぱら話し言葉的文章で現れるといった従来への認識とはずれる事となる。しかし -ей 語尾が総数で 6 件というのは非常に小さい数字であり、ここから一般的判断を下すのは難しい。そこで、単一形のヴァリエントについてさらに интересный (興味深い) という語でも検索してみた。結果は以下の通り。



	-еє 語尾	-ей 語尾	合計
話し言葉的	20 例 (58.8%)	14 例 (41.2%)	34 例 (100%)
書き言葉的	175 例 (81.8%)	39 例 (18.2%)	214 例 (100%)

【表 6-3 -еє:-ей 文体別 интересный】

интересный の例からは話し言葉、書き言葉ともに-еє 語尾が優勢であることが見て取れる。また上記 крупный の例と同様に-ей 語尾が話し言葉でよく用いられていることを示す結果となった。しかし、書き言葉的な環境でも-ей 語尾が約 18%も現れていて、もっぱら話し言葉であられるという従来の認識とは若干ずれる形となった。

#### 4. まとめと課題

今回の検索では比較級の単一形と合成形、および単一形のヴァリエントに関して、統語的、文体的な使い分けをコーパスを使い検証した。

単一形：合成形の統語的な使い分けは、単一形が述語として現れやすく、合成形が定語として現れやすいという、従来の認識を支持する結果が得られた。また文体に関しては「話し言葉的」「書き言葉的」ともに単一形が好まれる傾向にあることが確認できた。これは城田 (1993) の記述に概ね沿う結果ではあるが、一方で Розенгаль (2003) のように単一形は「話し言葉的」とみなすことには疑問が残る結果となった。

また単一形のヴァリエントに関しては-ей が幾分話し言葉的であることは認められた。しかし書き言葉的なテキストにおいてもある程度の数が認められることがわかった。これは従来の認識から大きく外れるものではないが「-ей 語尾」が話し言葉的という点で有標である事を認めることは難しそうである。

今回の結果で新聞、雑誌などの書き言葉にも「-ей 語尾」が現れてきたことは、現代ロシア語における「話し言葉」と「書き言葉」の接近を意味しているとも考えられる。

過去のテキストについても同様の調査を行ない、「-ей 語尾」に「話し言葉」的特徴があったのか調べる必要がある。時代ごとに「-ей 語尾」の割合を調べていくことであるいはロシア語における「話し言葉」と「書き言葉」の接近・混同の歴史について何か手がかりがつかめるのかもしれない。これらの研究については今後の課題としたい。

#### おわりに

今回の研究では先行研究のあいまいな記述を具体的数字でより明確にすることを目的とした。数字を出すという点で当初の目的は一応果たすことが出来た。しかし今回利用したコーパスには詩、韻文が含まれておらず РГ (1980) の記述を完全に検証することが出来なかった。また ГИРР にあるような「インテリゲンツィアの言葉」など特殊な環境についても同様である。年代的にも 19 世紀後半から現代までのものであったため上記のような課題

も残った。

近年大規模なロシア語のコーパスもいくつか現れてきたが<sup>10</sup>、全体的に現・近代文学作品などをテキストとしたものが多いため、文体的・通時的な問題を扱う際にはまだまだ不自由な面がある。幅広い文体・時代のテキストを含んだ総合的なコーパスの完成が待たれるところである。

#### 参考文献

РГ1980: Академия наук СССР Русская грамматика М.,1980

ГПРР1976: Граудина,Л.К. и др. Грамматическая правильность русской речи М.,1976

ГПРР2001: Граудина,Л.К. и др. Грамматическая правильность русской речи М.,2001

РОЗЕНТАЛЬ2003: Розенталь,Д.Э. Справочник по русскому языку М.,2003

ЧС1977: Засориной,Л.Н. и др. Частотный словарь русского языка М.,1977

城田俊 1993: 『現代ロシア語文法』 東洋書店 1993

小林潔 2003: 「ドイツ・チュービンゲン大学のロシア語コーパス」『ロシア語研究』No.16 東京

水野晶子 2004: 「AOT のロシア語検索システム」『ロシア語研究』No.17 東京

---

<sup>10</sup> 例えば AOT ロシア語検索システムは総語数 6 億 8 千万で、形態素解析により文法情報も付加されているという大規模なものであるが、そのテキストは全て文学作品であり文体的に偏りがあるといわざるを得ない。またロシア語に翻訳された海外の文学作品も含まれるため、使用にあたっては注意が必要となる。AOT ロシア語検索システムについての詳細は水野 2004 を参照のこと

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	合計
крупнее	6	5	34				18		3		1	67
крупней	1		1				4					6
более крупный			3									3
более крупного		2	1				1					4
более крупному			1									1
более крупным			2				2					4
более крупном	1	2	1				1					5
более крупное							1					1
более крупная		1										1
более крупной			2				1					3
более крупные		4	4	1			1					10
более крупных		1	3	1			3					8
более крупнам												
более крупными							1					1
более крупнах												
более крупен												
более крупна												
более крупно												
более крупны												
合計	8	15	52	2			33		3		1	114

【表 総検索結果 крупный】空欄はヒット数が「0」を示す。数字は文頭・文中に現れるものの合計  
(以下表 についても同様)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	合計
моложе	24	1	92		2	5	92	3	8	1		228
более молодой	1		2				10					13
более молодого	1		2				4					7
более молодому							2					2
более молодым		2	2				3					7
более молодом												
более молодое							1					1
более молодая			1									1
более молодые		1	10				3					14
более молодых	1		5				2					8
более молодым												
более молодыми		2					1					3
более молодых												
более молод												
более молодая												
более молодое												
более молодые												
合計	27	6	114		2	5	118	3	8	1		284

【表 総検索結果 молодой】

- ① Corpus:UC-Press Text
- ② Corpus:UC-Literary Text
- ③ Corpus:Ogonek 1996-2002
- ④ Corpus:Interview Corpus
- ⑤ Corpus:A. & B. Strugackie
- ⑥ Corpus:A. Marinina
- ⑦ Corpus:Detective Stories
- ⑧ Corpus:M. Bulgakov Prose works
- ⑨ Corpus:M. Bulgakov Sobrannoe
- ⑩ Corpus:Ilqf i Petrov
- ⑪ Corpus:A. Rybakov

・ 表中の空欄は検索結果が「0」であることを示す。